

東京蜘蛛談話会通信 No. 89 (1997年2月2日)

編集・世間文雄 / 印刷・本紙 東京都豊島区 光プリンター

付録 池田博明

† † 1996年度採集観察会 † †

場 所：神奈川県三浦市 小網代の森
第4回 2月23日（日） 雨天決行！！
(最終回)

重
雪でも行ないます！

集 合：京浜急行線「三崎口」駅改札口 10:00
世話人：安田明雄 ☎ 045-641-0763
(谷川明男)

いつものように小網代の森へは、京急バス「三4」系統
油壺(マリソーパーク)行きで「荒井館前」下車、徒歩15分採集観察
は白鬚神社から石橋を通って
小網代湾の対岸までを予定しています。

※ 1997年度の活動 ※

AVA 総会・例会案内 AVA

日時：4月20日（日） 10:00～

場所：目黒区立駒場住区センター (☎03-3496-2613)

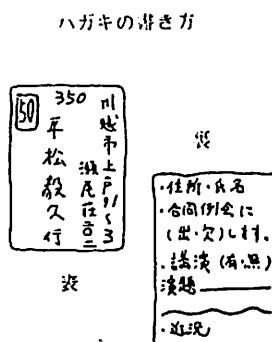
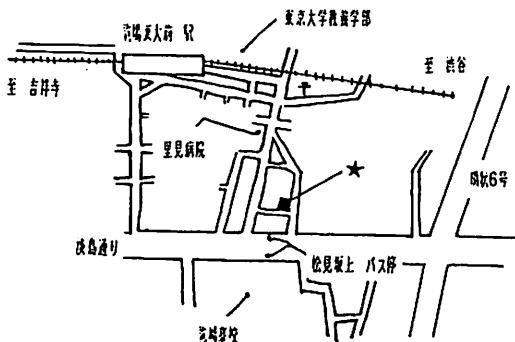
東京都目黒区駒場2-22-4 (京王井の頭線「駒場東大前」下車徒歩8分)

講演と総会と懇親会

→ 世話人：平松毅久 (☎ 0492-33-8792)

△△同封のハガキにて出欠の連絡を事務局平松まで。近況は通信誌上に掲載します。△△

目黒区立駒場住区センター



合宿予告 (総会承認事項)

日程：7月25日（金）～7月28日（月） 場所：沖縄県 担当：谷川明男

詳しくは本通信と同封の別紙をご覧ください。もし見当らないようでしたら、笹岡までお知らせください。折り返しお送りします。

No. 90 の締切は 89-(1) 4月末日です！

1997年度東京蜘蛛談話会採集観察会・場所と日程

場所：千葉県船橋市 「船橋県民の森」 雨天決行！

日程：第一回 5月18日（日）

第二回 7月13日 第三回 10月19日 第四回 1998年2月22日

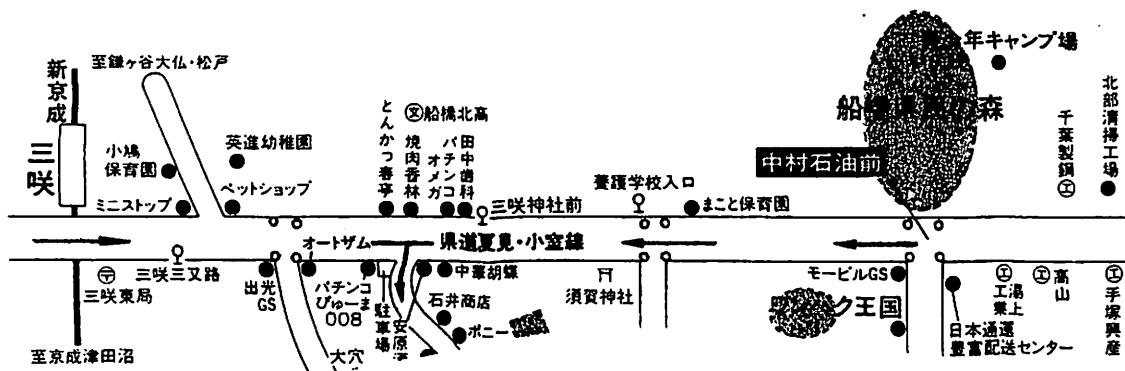
集合：「船橋県民の森」（通称「県民の森」）入り口

時間：午前11時00分

世話人：貞元己良 0474-74-8889 工藤泰恵 0471-32-6853 長井芳夫0474-72-9700
和仁道大 043-237-9303

行き方：新京成電車（松戸～京成津田沼）三咲（みさき）駅下車、駅前バス停から「県民の森」行き（¥160）約10分で現地到着。

尚、東京から津田沼まで総武線快速で30分、津田沼駅から新京成電車新津田沼駅まで徒歩5分、新津田沼駅から三咲駅まで約15分です。



「談話会通信」について

1. 会の催しの告知など、会員のみな様への連絡を主な目的としています。その他クモおよび蜘蛛形類全てに関する、「KISHIDAIA」誌ほど専門的でない文と新聞雑誌等の記事とを掲載します。
2. 郵便料金の関係で、本誌1号原則12円最大20円です。これに付録1～3枚ほどがつくことがあります。
3. 単年度最低3回の発行を基本としています。
 - ①その年度の1号目は5月第3または第4日曜日、2号目は9月第3日曜日、3号目は2月第1日曜日が発行日になります。
 - ②各号投稿締切は1号目が4月末日、2号目が8月末日、3号目が12月末日です。
 - ③締切を過ぎた投稿は原則次号掲載となります。
 - ④投稿文は内容によって、「KISHIDAIA」に転載をお願いする場合があります。
 - ⑤投稿の原稿と新聞雑誌等の切抜記事は原則お返ししません。
 - ⑥切抜記事は、特別な場合を除いて「付録」へ掲載になります。また「付録」は本誌との兼合で、分量と締切によらず記事の掲載時期とが不定になります。

「談話会通信」の編集は笹岡文雄が行なっています。

投稿とご意見は下記の住所へお願いします。

〒170 東京都豊島区北大塚3-12-21

† 東京蜘蛛談話会・多足類懇談会合同例会報告 †

1996.12.1 (日) 10:15~16:55 目黒区立駒場住区センター

司会進行：桑原幸夫 (スライド：畠守有紀、新海栄一)

(1)開会の挨拶：萱嶋 泉、篠原圭三郎 10:15~10:47

開会の挨拶の中で萱嶋泉さんから、木村有香、大熊千代子、白甲鏞三氏の計報が伝えられました。(下記、計報参照)

(2)自己紹介 10:48~12:28

(3)講演 13:30~16:43

①池田博明 「最近わかったハエトリグモ情報」(スライド)

②新海 明 「クモは壊れた網の修繕をするか?」(スライド)

③加藤むつみ、工藤泰恵 「続トゲグモの卵のうに関する報告」(VTR)

④篠原圭三郎 「幕末に日本で多足類を採集した外国人とその種類」(スライド)

⑤新海栄一、金野 晋 「ゴケグモ騒動とその後と外来クモについて」(スライド)

(4)閉会の挨拶：萱嶋 泉 16:44~16:55

参加者：(30名・50音順敬称略)

浅間 茂、池田博明、伊藤浩美、梅林 力、大川秀治、長田佐智子、小野展嗣、
加藤むつみ、金野 晋、萱嶋 泉、木村知之、工藤泰恵、久保田克哉、桑原幸夫、
笹岡文雄、篠原圭三郎、新海 明、新海栄一、高橋 登、谷川明男、千田高史、中島晴子
西野洋一、萩野康則、畠守有紀、伴 満、平松毅久、古浜 隆、安田明男、吉澤美香

計報

1996年相次いで、クモ学に多大の貢献された三人の研究者の方々がお亡くなりになりました。

9月1日 木村有香氏(96歳) キムラグモを採集し、岸田久吉博士により献名を受けたことで知られています。ご専門は植物分類学、特にヤナギ科の記載は多数におよんでいます。

10月5日 大熊千代子氏(65歳) 日本、東洋区、オーストラリア区のアシナガグモ属の分類を整理再検討されました。日本のアシナガクモ科の研究の第一人者でした。

11月19日 白甲鏞氏(81歳) 東亞蜘蛛学会創立会員のお一人で、82歳の誕生日を目前にされていました。韓国クモ学界の第一人者。滞日中にはキムラグモの分布論のほか、多数の邦文論文があります。日本蜘蛛学会名誉会員。

謹んでお三方のご冥福をお祈りいたします。

また当会では大熊千代子氏の追悼を、「KISHIDAIA」誌上にて致します。詳しくは次号 No. 71をご覧ください。

この計報をお知らせするにあたって、新海栄一さん、小野展嗣さんのお二人には亡くなられたお三方についてのお教えをいただきました。お礼申し上げます。(編)

*近況つれづれ19人・東と西（合同例会出欠ハガキからの転載・一部編集）

東京都

- ▼小野展嗣（新宿区）大熊千代子さんを失ったことは日本のクモ学界にとって大きい損失だと思います。残念です。
- ▼石川みどり（杉並区）8月10日杉並区主催の塚山公園での、蜘蛛観察会に行きました。杉並区神田川ぞいに縁が多く従って蜘蛛も多いです。
- ▼梅林 力（杉並区）特にありません。のんびりと、クモの本を読んだり、観察したりというところです。
- ▼利岡 匠（世田谷区）いつも談話会通信を興味深く読ませて頂いております。
- ▼棚沢 新（文京区）クモの研究にまったくといっていい程、手をつけない年が3年近くなってしまいましたが、元気でやっています。そろそろ復活しなければと思います。反省の多い毎日を過ごしています。

千葉県

- ▼和仁道大（千葉市）7月14日千葉市昭和の森で「クモの不思議」のテーマで市民対象の観察会をやりました。中々好評でしたが特に小学生の男の子はクモを探すのも上手でクモに大変興味をもつたことが翌月（8月）の観察会で報告されました。
- ▼高津佳史（我孫子市）今夏、我が家的话题は庭の植木ばち（ポット）にカネコトタテグモが住みついたことです。前から、庭やえんの下には巣がいくつか有ったのですが、はちの中に作ったのは初めてでした。残念ながら、クモタケまでは生えてきませんでした。
- ▼工藤泰恵（柏市）気温の低下と共にエサが少なくなつてウロウロしております。食べたくもないバナナを無理に食べたり、芝生の中の草は荒らしつぱなし…等々むなし（？）努力を続けていますが、別にどのクモをどうして…という目標がないので困ります。これじゃペットじゃない？と自問自答しております。
- ▼生山 健（松戸市）近々仕事の内容が変わるので最近特に忙しいです。組合の仕事もまわってきたので大変です。

埼玉県

- ▼野崎文江（入間郡毛呂山町）ジョロウグモの観察を今もしています。9月20日頃からお見合い、交接のシーンが見られるようになりました。10月の下旬に入つてもまだみられます。10月21日頃から朝の気温が10度以下になりました。でも元気です。日中は18度前後まで上昇するのでクモにとっても助かっているのかもしれません。10月19日早朝6時30分10度の気温の中で巣の中はどの位かクモのいる場所を温度計ではかってみました。巣の中は10.5度いく分かあたたかいようです。1℃の中で生きていられる

事務局は 平松毅久 〒350埼玉県川越市上戸91-3 瀬尾荘202

のは巣（糸）のおかげかもしません。木枯しが吹いた時や雨の時の巣の中の温度をはかってみたいと思っています。

神奈川県

▼佐藤幸子（横浜市）（10月10日）この頃雨が多いせいか、家の中にマネキグモ、アサヒエビグモ、オオヒメグモ（♀）が姿を見せて、猫に追いかけられています。まだ暖かい日が多いので、私は元気に過ごして居ります。

▼谷川明男（横浜市）オニグモの研究をしています。次の標本をお持ちの方がいらっしゃいましたらぜひ拝見させて下さい。本物のヤミイロオニグモ♀、コケオニグモ♀、ダンダラオニグモ♀、キタグニオニグモ♀♀、確実に交尾後のオニグモの♀、確実に交尾前のオニグモ♀。どうぞよろしくお願ひいたします。

▼水野陽介（横浜市）来年の合同例会で発表することの実験を休日になるとやっていきます。

▼新村 誠（川崎市）最近、近くでキシノウエトタテやカネコトタテを見つけて喜んでいます。

▼池田博明（足柄上郡大井町）修学旅行の引率で沖縄へ3泊4日でいきます。11月4日～7日の期間ですが、一寸沖縄の自然を垣間見て来ます。

▼久保田克哉（静岡県富士宮市）配属となった部署が忙しく、あわただしい毎日を過ごしています。先日、やっと平成7年度の仕事が終わりました。ほっとする間もなく、平成9年度の事業計画の作成が始まりました。いつ平成8年度の仕事をすればいいんだ！

▼鶴崎展巨（鳥取県鳥取市）来年（1997）3月から細胞遺伝学が専門のロシアの研究者が学振の特別研究員としてうちに滞在する予定です。ザトウムシの染色体の交雑帶の共同研究が目的ですが、クモの染色体の論文も書いている人なので、こちらのほうでもいくらか仕事するかもわかりません。その際は材料入手等ご協力いただけすると幸です。

▼荒金泰子（大分県大分市）九月、庭に植えている小松菜の根元に同袋中のハンゲツオスナキグモのペアを見つけました。石垣、崖にいるとばかり思っていたので、驚きました。

▼石野田辰夫（宮崎県宮崎郡佐土原町）宮崎では九月中旬に入って、オニグモが産卵をはじめ下旬にどの個体も終了しました。まだ、ペッチャンコの雌は網を張って生活をしています。ジョロウグモが唯今、交接期、雌の所に雄をよくみかけます。コガネグモの雌は九月中旬までに、いなくなりました。アズチグモで二件ほど面白いクモを採集したとの連絡がありました。白いのでびっくりされたようです。自然に目を向ける人が増えて来た証かもしれません。

*出欠席のハガキをいただいた方々（50音順敬称略）

出席：泉 宏子、小澤實樹、加藤むつみ、萱嶋 泉、新海 明、鈴木成生（6名）

欠席：梅田泰圭、木庭 奏、東條 清、藤井靖浩（4名）

だんわ会活動報告

平松 毅久

通信88号で予告したように去る10月10日第10回（これに合わせて日を決めたわけではありません）「だんわ会」採集観察会が埼玉県川口市見沼たんぼ地域で行われた。今回の企画は会員で川口在住の西尾三枝子さんからのご提案により西尾さんのご主人研二氏が所属されている埼玉県生態系保護協会との共催のような形で実現したもので、当日採集したクモの記録を川口市が計画中の公園づくりに対する提言の一助とするのが主旨であった。

10月に入って雨続きだったが、秋晴れとはいかぬまでもますますの天候に恵まれ総勢7人が集まった。午前10時に川口駅をバスで出発して20分弱、木曽呂で下車し西尾研二氏らと合流し、自己紹介の後西尾夫妻の案内でいよいよスタートとなった。コースは当初の予定を変更して金崎の森（斜面林、ここは鬱蒼とした竹林でジョロウをはじめとする普通種ばかりであった）から見沼代用水東縁沿いに進み、芝川を左に見ながら浦和市を横切る形で見沼自然の家までであった。浦和と川口の境から自然の家までの行程にはアシ原が続いていたが、ところどころ埋め立てられていたり粗大ゴミが捨てられていたりしたのが残念であった。湿地や草地は全国的に開発されていく傾向にあり、見沼もその例外ではなくこれも時の流れというものかもしれない。コースの最後である見沼自然の家は屋敷林をほぼそのまま保存してある程度の維持管理をするシステムになっているようだったが、素朴で好感が持てた。ただ時期的なものなのかここも含めて全体的にクモは少なめであった。クモのリストと参加者は下記の通りである。

最後に今回の観察会全般にわたってお世話をいただいた西尾さんご夫妻、地元の有志佐藤さん親子、参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。また埼玉県生態系保護協会から交通費の名目でいただいた5000円は東京蜘蛛談話会への寄付ということにさせていただきます。ありがとうございました。

参加者（50音順、敬称略）：笠原喜久雄、工藤泰恵、笹岡文雄、佐藤 剛、佐藤大介、西尾研二、西尾三枝子、野崎文江、平松毅久、森 要 以上10名

ジグモ科 ジグモ F, y

ハグモ科 ネコハグモ F, M

ウズグモ科 マネキグモ y

ヒメグモ科 オオヒメグモ F, y, e シロカネイソウロウグモ F, y
ヤホシヒメグモ m, y カレハヒメグモ y

サラグモ科 ヘリジロサラグモ f チビアカサラグモ M

コガネグモ科 ハツリグモ y ビジョオニグモ F コゲチャオニグモ F, y オニグモ y
ナガコガネグモ F コガタコガネグモ F ギンメッキゴミグモ F

会計は 安田明雄 〒231神奈川県横浜市中区元町5-219

ゴミグモ y ヨツデゴミグモ m, y ヨツボシショウジョウグモ F
 コガネグモダマシ y ドヨウオニグモ y ワキクロサツマノミダマシ y
 ジョロウグモ F, M ズグロオニグモ y
 アシナガグモ科 ヨツボシヒメアシナガグモ F, m トガリアシナガグモ f
 アシナガグモ f, y ウロコアシナガグモ y
 ヒラタグモ科 ヒラタグモ y
 タナグモ科 コクサグモ F, M
 ハタケグモ科 ハタケグモ m
 キシダグモ科 イオウイロハシリグモ y アズマキシダグモ y
 コモリグモ科 ウツキコモリグモ F キクツキコモリグモ F, f, y
 ササグモ科 クリチャササグモ y
 エビグモ科 キンイロエビグモ y
 カニグモ科 キハダカニグモ m ハナグモ M, m, y ヤミイロカニグモ F
 ハエトリグモ科 ネコハエトリ y シラヒゲハエトリ M ヨダンハエトリ m
 アリグモ f, m マガネアサヒハエトリ y メガネアサヒハエトリ m
 カラスハエトリ F アオオビハエトリ y

48種



誠文堂新光社から「カラー・アルバム
 クモ」が発売中。児童書なので
 店頭に少なく、品薄です。本のサイ
 クルが短い昨今、すぐに品切れ絶版
 になるものと予想しています。お早
 めに御購入下さい。

写真は主に亡き佐藤有恒さん。その
 他に緒方清人さん、高橋登さん、谷
 川明男さんの美しい写真をお借りし
 ました。池田の写真も若干あります。
 編集および文章は池田博明が担当
 しました。編集方針はとにかく美し
 いこと、クモの生活を表現すること、
 観察や実験の役に立つことです。

(同時に発売された「ハチ」は傑作
 です) 定価 2,200円、32頁、使
 った写真は100枚! (このシリーズ最多)

(池田)

1995年 クモ学ニュース

池田博明

【1】八木沼健夫博士、御逝去

1995年4月5日、療養の甲斐なく八木沼健夫博士が亡くなられた。享年79歳。肺ガンであった。日本のクモ学における博士の業績はあまりにも大きい。クモ学の普及と教育、指導にかけた情熱もはかりしれないものがある。クモに興味を持った人で博士の教えを受けなかった人を数える方が難しい。追悼文は談話会会誌 *Kishidaia* 70号及び通信87号、日本蜘蛛学会会誌 *Acta arachnologica* 44巻2号などに掲載された。また、11月17日には濱田龍一氏も鬼籍に入られた。私が濱田氏を知ったのは伊藤嘉昭「虫を放して虫を滅ぼす」(中公新書)だった。濱田氏はクモ研究者としてではなく、ミカンコミバエの侵入を防ぐための個体群生態学者として登場していた。クモ研究者としてはヤマトコマチクモの食餌量と成長に関する論文(1971年)がある(「クモのメニューの量と質」「クモのはなし!」所収)。

【2】セアカゴケグモ発見

1995年11月24日、共同通信で、大阪府高石市でセアカゴケグモ *Latrodectus hasseltii* が70匹以上発見されたとの報道があった。日本では初めての致死的な毒を持つクモの侵入ということで、大阪府南部を中心に「毒グモ騒動」が起きた。次いで三重県四日市市でも発見された。報道のたびにクモ数が増えていくため、一時はパニック状態になったが、一週間後に毒力は予想より低いという毒性試験結果が出て、沈静化した。日本蜘蛛学会の名が日本全国に知れ渡る結果になったが、事後に様々な課題を残した。1995年の12月3日の合同例会参加者が51名にもなったのは「セアカゴケグモ効果」であろう。それだけ、それ以前に正確な情報が少なく、情報を求める会員が多かったことの証拠である。その後の研究で毒の強さは訂正され、予想通り強いことが分かった。しかし、一般市民で咬まれた人はまだ出でていない。1996年に追加論文や続報が出ているので、問い合わせは池田まで。

【3】ハイイロゴケグモ発見

セアカゴケグモ騒動のまっただなかの1995年12月8日、横浜市の本牧公園で厚生省横浜検疫所の職員によって採集されたクモ(11月27日)が大利昌久氏の許に持ち込まれた。同席した私はその中にハイイロゴケグモ *Latrodectus geometricus* を発見し、厚生省との対応に追われた。12月14日に検疫所からの公表がされ、横浜市・川崎市・横須賀市の職員が各市域の公園や港を調査して、70頭程度を発見した。すべて本牧公園から採れた。12月16日(土)に新海栄一氏を中心に談話会メンバー約20名が4つのグループに分かれて、横浜港周辺地域を徹底調査した。その結果、16頭の雌と4頭の雄、たくさんの幼体と卵のうを採取した。結局、ハイイロゴケグモの神奈川県侵入地域は本牧公園だけだった。その後も、谷川明男、田副幸子、伴満各氏が採取して本牧公園のハイイロゴケグモは根絶された。

ゴケグモ騒動でこれまで全国的にあまり目を向けていなかった港湾域のクモが調査され、マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa* などの移入種がけっこう生息していることが判明した。他のゴケグモの種類も発見されたようである。なお、ハイイロゴケグモは、東京都大井埠頭公園、名古屋港(雌1)、大阪南港(雌30)、沖縄県浦添港でも発見された。

KISHIDAIA 原稿は 木村知之へ 〒215神奈川県川崎市麻生区東百合丘4-38-12

【4】神奈川県津久井町で珍種ラッシュ

大川秀治氏は、1995年9月にスズミグモの網と卵のう、キジロオヒキグモ(10頭)、マメイタイセキグモの卵のう、ムツトゲイセキグモ(2頭)などを神奈川県津久井町城山周辺の尾根伝いのやぶで発見した。高知合宿も合わせると、大川氏の珍種ゲット率は神業の感がある。また、伴満氏は、1995年8月14日、談話会の採集観察会の場所であった東京都の五日市横沢でムツトゲイセキグモ雌を採集した。伴氏の記録は会誌70号71頁参照。

【5】キシノウエトタテグモの野外の生態が判明

鈴木成生氏の長年の研究により、キシノウエトタテグモの野外での生態が判明した。産卵及び出のう、出巣などについての綿密な研究成果は *Kishidai* 70号に4篇20頁の大論文として結晶している。

【6】ナルコグモの求愛および交尾行動が判明

平松毅久氏により、微少なナルコグモの求愛および交尾行動が観察された。埼玉県飯能市の北川にて、1995年6月5日14時と11日12時40分に観察。岩に付着した交尾糸上で脚の接触・離れ・糸を弾くなど、2時間半以上の求愛をへて交尾。交尾体勢はけんすい型0-WVで、約4時間の間に20回の交尾を行ったという。

【7】ヤミサラグモの種分化

井原庸氏により、ナガエヤミサラグモ種群の分類学的改訂の結果が論文発表された。これらは本州西部と四国に分布し、当種群は3既知種と5新種に整理された。生殖器の種間の形態的差異は小さい場合もあり、同定は簡単ではない。なお以下の新種や新記録に関しては日本蜘蛛学会会誌 *Acta arachnologica*, 44巻1号または2号の該当論文を参照のこと。

【8】31年ぶりにトサハエトリが採れた

工藤泰恵氏が茨城県土浦市の宍塚大池で1995年6月26日に採集した小さなハエトリグモの雄は、トサハエトリ *Tasa nipponica* BOHD. et PROS., 1987だった。最初に中平清氏が高知県で採集してから31年ぶりの発見である。続いて野嶋宏一氏により岡山県でも発見された。本種に関しては談話会通信79号にも記事あり。

【9】ムツボシオニグモの正体とアジア初のヒメドヨウクモ

谷川明男氏によって、ムツボシオニグモの分類学的な位置が決定した。新種ムツボシオニグモ *Araniella yaginumai* TANIKAWA, 1995と、北海道・長野県に生息するトガリハナオニグモ *A. displicata* (HENZ, 1847) (基準産地はアメリカ) であった。なお、黒点数は同定には使えない。また、南米やアフリカから報告されていたヒメドヨウクモ属 *Diphyia* のクモをオオクマヒメドヨウクモ *D. okunae* TANIKAWA, 1995 (東京・神奈川・静岡・愛知・福岡で発見) として記載した。台湾の種 *D. taiwanica* TANIKAWA, 1995も同属であった。

【10】奄美大島からクチバハエトリグモ属のクモ

伴満氏が奄美大島の湯湾岳公園で採集したハエトリグモは、ムツバハエトリに近縁な新種アマミクチバハエトリ *Wintonia bani* IKEDA, 1995であった。クチバはこのクモの体色が朽ちた葉の色であることに由来するが、命名者にはもうひとつの意図がある。本種はアリグモやムツバハエトリと同様の多歯ハエトリに属し、ムツバハエトリに頭胸部が似ているが、上顎の後牙堤歯数が7個あるため、当初考えた属和名

はナナツバハエトリだった。しかしこの属に所属する種のすべてが牙堤歯7個とは限らないので、この和名は不適当という指摘があった（ちなみにムツバハエトリグモ属も6歯とは限らない）。そこで考えた末、口歯（クチバ）ハエトリという隠れた意味をこめたのであった。もっとも、歯が口にあるのは当たり前である。本種のメスは不明であるが、オスに似た体色のはず。なお、長いこと学名が未決定のままだったマツモトハエトリはクラカタウ島で記載された *Bristowia heterospinosa* REIMOSER, 1934だった。さらにハエトリグモに関しては、IKEEDAが微少なネオンハエトリグモ属に日本産5種（既知種2種、新種3種）を報告した。

【11】ヒメグモの新種および新記録

吉田哉氏により、モリヒメグモ属 *Robertus* の3新種が記載された。サイトウモリヒメグモ *R.saitoi* YOSHIDA, 1995（栃木県から齊藤博採集）、ミナミモリヒメグモ *R.nipponicus* YOSHIDA, 1995（熊本市から入江照雄採集）、オガタモリヒメグモ *R.ogatai* YOSHIDA, 1995（日光市疊竜渓谷から齊藤博採集、山形県尾花沢市から吉田哉採集、長野県飯島町から緒方清人採集）。また、吉田氏はササヒメグモ属 *Thymoites* の1新種ヤギヌマササヒメグモ *T.yaginumai* YOSHIDA, 1995（沖縄県与那国島産）を記載し、既知のクロミシングモ及びアカミシングモをこの属に含めた。したがってそれをクロササヒメグモ *T.okunae* YOSHIDA, 1988、アカササヒメグモ *T.chikunii* YOSHIDA, 1988と改称した。

【12】ワシクモの新種および新記録

加村隆英氏により、ハイタカグモ属 *Haplodrassus* の2種が報告された。カズサハイタカグモ *H.kanenoi* KAMURA, 1995（千葉県木更津市から金野普採集）、キタクニハイタカグモ *H.cognatus* (WESTRING, 1862)（北海道上士幌町糠平から松田まゆみ採集）である。タソガレトンビグモ *Phaeocedus braccatus* (L.KOCH, 1866)（長野県諏訪市から加村採集、岡山県奥津町から野嶋宏一採集）は新記録属。

【13】フクログモの新種および新記録

小野辰嗣氏によりフクログモ属 *Clubiona* の2新種オガタフクログモ *C.ogatai* ONO, 1995（愛知県設楽町から緒方清人採集）とイハラフクログモ *C.iharai* ONO, 1995（広島県芸北町から井原庸採集）が記載された。また、林俊夫氏によりバンドウフクログモ *C.bandoi* HAYASHI, 1995が記載された。後者はこれまで *C.kasaneensis* PAIK, 1990とされていた種である。

【14】コモリグモの新種

田中穂積氏により1新種エゾカイゾクコモリグモ *Pirata shibatai* TANAKA, 1995（北海道豊頃町から柴田浩平採集）が記載された。

【15】ショロウグモの網特性と餌捕獲

宮下直・新海明両氏は、ナガコガネグモとの比較により、ショロウグモの網が小形の餌とともに大形の餌を捕獲する機能もあることを明らかにした。

【16】カラカラグモの餌捕獲の映像

新海明氏の指導により、「所さんの目がテン、糸を操るクモ」(1995年7月4日放映、NTV)で、ヤマシロオニグモの造網、コガネグモ・カラカラグモの餌捕獲などが撮影され、放映された。

（以上の選定は独断です。“遊び”ですが、お気づきの点は池田まで）

採集観察会中間報告（三浦市小網代の森） 第3回 1996年10月21日（日）曇り後雨

参加者（50音順、敬称略）：青木重之、浅間茂、石渡大輔、笠原須磨生、加藤むつみ、坂田大輔、笛岡文雄、新海明、新海栄一、谷川明男、千田高志、中野隆雄、平松毅久、古浜隆、三川英之、水野陽介、安田明雄 以上17名

カネコトタテ科 カネコトタテグモy
トタテグモ科 キノボリトタテグモ住居
ウズグモ科 カタハリウズグモy, e オオギグモF
エンマグモ科 ミヤグモ（不明）
ヒメグモ科 オオヒメグモF, y, e アシブトヒメグモf カレハヒメグモF, m
フタオイソウロウグモy シロカネイソウロウグモy オナガグモf
サラグモ科 テニツツサラグモF
センショウグモ科 センショウグモy
コガネグモ科 オニグモF, y サガオニグモy ズグロオニグモf ハツリグモy
オオトリノフンドマシe コガネグモy コガタコガネグモF
ナガコガネグモF ゴミグモy ヨツデゴミグモm, y ヤマトゴミグモF
メガネドヨウグモy ヤマジドヨウグモF ジョロウグモM, F, y
アシナガグモ科 チュウガタシロカネグモF アシナガグモy ヤサガタアシナガグモM, F
ヒラタグモ科 ヒラタグモy
タナグモ科 コクサグモF メガネヤチグモM, F, y
キシダグモ科 イオウイロハシリグモy
コモリグモ科 ウツキコモリグモy
フクログモ科 ウラシマグモF
アシダカグモ科 アシダカグモe コアシダカグモy
カニグモ科 ハナグモM, F ワカバグモy アズチグモy
エビグモ科 キハダエビグモF
ハエトリグモ科 ネコハエトリm, F メスジロハエトリy
チャスジハエトリy アリグモy

以上46種

† † 事務局だより † †

会員移動 1996年 8月下旬～1996年12月下旬 (敬称略)
(住所変更等)

利岡 匠：〒158 東京都世田谷区用賀3-11-3-303

石川みどり：〒168 東京都杉並区高井戸西1-12-1 浴風会ケアハウス604号

梅田 泰圭：〒501-37 岐阜県美濃市極楽寺47

織茂 尚子：〒247 神奈川県鎌倉市梶原630-3-508
(退会)

牧原くみ子、阿佐見正起（希望）

会費受領 (1996年12月25日現在 敬称略)

【1993年度】山田三重子

【1994年度】井伊伸夫 井伊佑介 細田みどり 新海栄一 浅枝裕嗣 大久保襄 東千都子
堀越雅弘 林秀幸

【1995年度】伊藤研 磯部達男 塩崎哲哉 河又和夫 柿沼智子 笠原須磨生 吉田嗣郎
吉田真 宮下直 高津佳史 佐々木勝實 寺西玉美 初芝伸吾 緒方和 上原健 須賀瑛文
清水徹男 西条雄介 千田高史 川崎慎二 増原啓一 大野正男 大利昌久 中島祥吉
貞元巳良 鍋田修身 入江照雄 尾口治子 福田英克 平松毅久 木村正明 木藤幸雄
野崎文江 有田立身 濱田叡子

【1996年度】阿部代始子 芦田喜治 安藤昭久 井原庸 井上尚武 井野文雄 永井均
永田勝利 横山和正 加村隆英 加藤むつみ 海老原憲昭 貝発憲治 萱嶋志門 萱嶋泉
苅部幸世 関口晃一 吉倉眞 及川照代 宮園あがさ 宮園真理子 宮崎和代 宮本美織
近藤昭夫 桑江司 権田重雄 古川涉 古内栄一 後藤好正 荒金泰子 高橋米夫 高田勝
国見裕久 佐久間良三 佐々木智雄 佐藤理子 斎藤博 笹岡文雄 山川守 山本一幸 秋元昇
秋山亜由子 緒方清人 小笠原幸恵 小川敦央 小池牧子 小峰光弘 小林健一 小澤實樹
松田浩二 松田まゆみ 新井弥生 新海明 新開孝 新村誠 森要 神田登 諏訪哲夫
水野陽介 菅波洋平 西川善朗 赤羽尚夫 泉宏子 浅間茂 前川隆敏 増田進 大塙一郎
大河内哲二 大久保光将 大熊千代子 谷川明男 池田千洋 池田泉 池田博明 中平清
中野隆雄 朝倉幹晴 長井芳夫 長田佐智子 長島忠義 田中一裕 田中徳久 田副幸子
日下部光代 梅田泰圭 萩本房枝 八幡明彦 伴満 浜村徹三 福島彬人 福本伸男 米田宏
本木洋子 野戸章 野嶋宏一 立川清二 林俊夫 林聰彦 鈴木勝浩 浪波徳義 和仁道大
桑川和子

【1997年度】安田明雄 稲葉茂代 引田和明 加藤ななえ 加藤輝代子 笠原喜久雄
菊屋奈良義 吉田哉 吉澤美香 宮島仁 古浜隆 工藤泰惠 高橋登 佐藤幸子 佐藤和昭
坂寄廣 山本一博 守桂子 小川新哉 小野辰嗣 織茂尚子 生山健 西尾三枝子 石川みどり
千国安之輔 早乙女薰 大川秀治 竹内慎 長島充 鶴崎展巨 東條清 藤井靖浩 德本洋
梅林力 畑守有紀 板倉廉弘 浜岡史子 浜口哲一 北島博 牧孝匡 木村知之 利岡匠
鈴木成生 宮下和樹 木村正吾

【1998年度】稻垣成二 古沢笑子 佐々木健志 佐々木祐子 松本誠治 石野田辰夫
大石洋人 田中穂積 島田順一 蓮沼克巳

【1999年度】下謝名松栄 久保田克哉 甲守崇 小川光昭 中島晴子 鍋田忠雄 木庭奏

【2002年度】棚沢新

【2003年度】原勝司

【2005年度】熊田憲一 布施佳子

↓
→ 郵便振込口座番号
00170-8-74885
東京蜘蛛談話会
一般 ¥2,800 学生 ¥2,000

東京蜘蛛談話会 1997 年合宿について

東京蜘蛛談話会の 1997 年夏の合宿を次のように沖縄で実施いたします。奮ってご参加ください。往復の飛行機は羽田発着便を団体で予約いたしました。他の空港からご参加の方は今までの合宿と同じく現地集合といたします。

日程：1997年7月25日（金）～7月28日（月）3泊4日

宿泊：沖縄県名護市344 山田荘 0980-52-2272

行程：

7月25日（金）

東京	—————	那覇	—————	中城 or 数久田	—————	名護
11:00	JAL 903	13:30		専用バス		
羽田 10:00 集合						

7月26日（土）

名護	—————	旭川	—————	名護
専用バス利用、夜間観察は名護城跡。				

7月27日（日）

名護	—————	琉球大学与那演習林あるいは乙羽岳	—————	名護
専用バス利用、夜間観察は名護城跡。				

7月28日（月）

名護	—————	那覇	—————	東京
専用バス		14:40	JAL 904	17:00
那覇で自由行動、那覇空港 13:30 集合				

費用：

航空運賃……57750円

（東京発着の団体予約便往復利用の場合。片道のみの場合は往路 28160円。
復路 29590円。ただし航空運賃の改定があった場合には変動することがあります。また、利用者数が15名を割ると団体扱いではなくなります。）

旅行保険……1000円

（3泊4日分。羽田集合時から羽田解散時までの保証。ハブ採集を目的とした行動をしなければ、ハブも保険の対象になります。）

通信費……240円

宿泊・食費……19000円程度

（宿泊費と食費は現地で清算します。）

その他雑費……小遣いや飲み代、お土産代などは各自ご予定ください。

申込：下の申込書に必要事項ご記入の上、世話人谷川明男までお送りください。申込時に航空運賃、保険料、通信費をお支払いいただきます。申込書到着後、折り返し振込用紙をお送りしますので指定額を送金して下さい。入金の確認をもって参加確定とし、すべての予約の優先順位は参加確定の順とさせていただきます。参加確定後のキャンセルについては、旅行業者との間にキャンセル料が発生した場合にはご本人負担といたします（航空運賃については、7月9日までキャンセル料はかかりません；7月18日まで4410円、出発時刻まで8410円です）。

申込書送付先： 248 鎌倉市七里ガ浜東2-3-1

神奈川県立七里ガ浜高等学校

谷川明男

申込〆切： 1997年4月末日

（締め切り日以降の申し込みについては、航空機や宿泊についてこちらでの手配をお断りすることがあります。）

東京蜘蛛談話会 1997年沖縄合宿参加申込書

フリガナ _____

氏名 _____ 男・女 _____ 才

生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

連絡先住所 _____

電話番号 _____

申込内容（ ）内に○をつけて下さい（保険には全員加入していただきます）。

（ ）往路飛行機 7月25日 羽田→那覇 JAL903

（ ）25日宿泊 （ ）26日宿泊 （ ）27日宿泊

（ ）復路飛行機 7月28日 那覇→羽田 JAL904

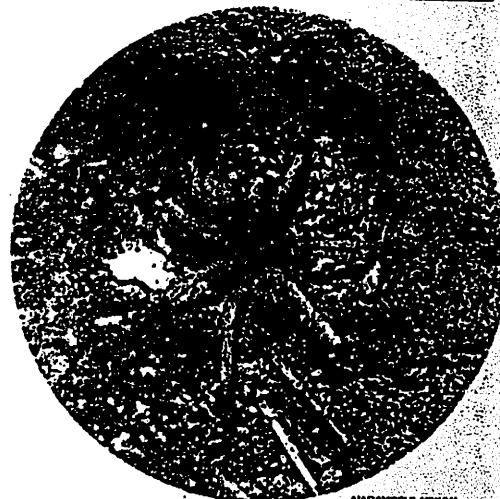
日本新発見

恋する雌に捧げる雄グモのセレナーデ

世界に3万5000種ほどいるクモの中で最も原始的とされるハラフシグモ。その仲間で、九州中部以南と沖縄に生息する体長2cm足らずのキムラグモは、普通のクモにはない環節と呼ばれる節を腹部に持ち(右)、土の中に巣を作る。この節はもともとハラフシグモの特徴だが、50年近くキムラグモの観察を続けている大学講師の菊屋奈良義さん(65歳)によると、「東南アジアにいるハラフシグモと違って、キムラグモはエサを捕る時には糸を使わず、巣の扉を作ったり卵嚢(らんのう)を抱える時だけ使う。この点がさらに原始的な特徴」

キムラグモは1920年に鹿児島市城山で、木村有香・元東北大教授が発見し、その名が付いた。菊屋さんは毎年このクモの群れの巣を350カ所で調べて、顔変わりな求婚風景も観察している。

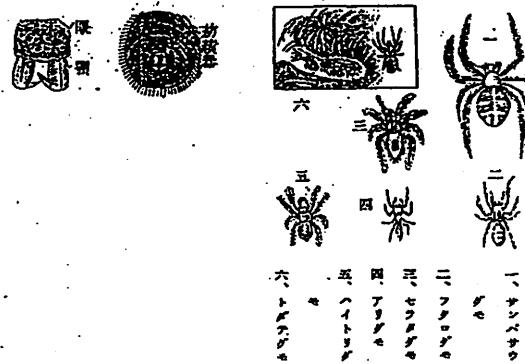
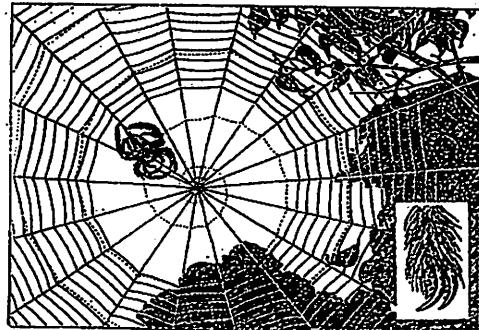
雄は、夜間に雌の巣穴を訪れ、入り口の扉の外で両方の触肢を頭部にこすりつけて振動させ、中にいる雌に信号を送る。「これが気に入らないと、雌は内側から扉を押し上げて雄をはじき飛ばすが、



それでもあきらめずに雄は求愛信号を送り続ける」
(菊屋さん)。巣に招き入れられた後、どういうわけ
かすぐに追い出されてしまう雄もいるそうだ。

アゴの先端にある牙と触肢を使って全長18cmの
巣穴を掘るが、このマイホーム建設の所要時間は
延べ400~500時間にもなるそうだ。

(蜘蛛) モ ク



一、おもにどこに住んで居るか。

冬

二、巣を造る様子及び次の事を見よ。

見よ。

1. 糸の出る所

2. 脚の用ひ方

三、巣はクモにどうてなんのためになるか。

四、餌は何か。又取り方を見よ。

五、クモを巣から落して見よ。

六、クモについて次の事を見よ。

1. 體は幾つに分れて居るか

2. 脚の數

七、蜘蛛類と昆蟲類とはどう違うか。

1. 昆蟲類

2. 昆蟲類

八、蜘蛛の卵を捕つて養ひ、其の發生及び生活の有様を見よ。

大正十四年三月五日訂正再版印刷
大正十一年四月十日發行
大正十一年四月七日印

定價	
四年用	金廿八錢
五年用	金廿八錢

發行所 印刷者 東京市麹町区御茶ノ水六番地
上原才一郎 信濃教育會



光風館書店

（明治三十一年四月）

「尋常小学理科学習帳」より

泉 宏子さん提供